

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098400015		
法人名	有限会社 M&Y		
事業所名	グループホーム銀杏の木	ユニット名	ひいらぎの棟
所在地	福岡県八女郡広川町大字長延630番地2		
自己評価作成日	平成25年10月18日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年11月14日	評価結果確定日	平成26年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々の重度化が進んでいる為、個別でのコミュニケーションやリハビリ等の対応を行っている。動くことが可能な利用者の方とは、音楽に合わせた体操やレクリエーションを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広川町の木として制定されている銀杏を事業所名の由来とし、周辺には田園風景や住宅、伝統産業の工場等が点在し、広い敷地内には、有料老人ホームも併設されている。月1回開催される公民館主催のいきいきふれあいサロンに参加したり、地域の祭りや小学校の運動会の見学に出かけている。また事業所で開催される縁日の銀杏祭りには、家族や地域の方々の参加も多く、出店や演芸披露にはボランティアの方々の存在も大きく、地域の楽しみごととして盛況に開催されている。季節ごとの事業所便りの他、日々の入居者の方々の様子や気付きをまとめた「暮らしの様子」を家族に送付しており、家族からは暮らしの様子や思いを知る手段として好評を得ている。2ユニットの関連法人グループホームが新たにスタートし、これを機会に、地域拠点としての更なる活動展開や、入居者本位に基づく日常の暮らしの継続に向けて、一つ一つ取り組みを重ねて行こうとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに理念を掲示している。 全体会議時に全職員で理念の唱和を行い、理念の共有と実践に努めている。	基本理念である「自由・安らぎ・温もり」のもとに、4項目の方針を掲げている。事業所便りへの掲載や全体会議での唱和、認知症ケアに関する研修を重ねる等、理念の共有と実践に結びつける取り組みがある。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り参加や、小学校の運動会の見学、ホームが主催する縁日などの催しには地域の方達を招待し、ボランティアグループを招いて演芸を行ってもらったりして交流を行っている。	公民館で開催される、いきいきふれあいサロン（健康チェック・体操・歌等）や長延祭りへの参加を通じて、地域との交流を重ねている。また、事業所としても縁日「銀杏祭」を開催し、家族や地域の方々と共に、出店や園芸を楽しんでいる。サポーター養成講座を通じて、認知症啓発活動にも取り組んでいる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトへ参加した職員が居り、その職員が講習を行い、認知症の方への理解や方法を地域の人々に向けて活かしていける様に取り組んでいる。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では内容の充実を図る為、各委員の方々に必ず発言して頂けるように努め、活発な意見交換が行える会議を目指している。 また、取り込める意見については取り込み、サービス向上に活かす様に努めている。	運営推進会議は、家族代表、区長、地域代表者（前・元区長）、知見者、行政担当者等の出席を得て、定期的に開かれている。運営状況やヒヤリハットなどの報告や、参加者との意見交換が行われている。家族会からの意見も収集し運営に生かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	八女地区グループホーム部会の研修へ参加したり、役場などへ出向き相談を行う等の機会は増えている。	八女地区の介護保険事業者連絡協議会のグループホーム部会や認知症研究での活動参加を通じて、行政担当者との連携や情報共有を図っている。また、ケースワーカーの方の定期的な訪問を受けている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職場内研修を実施し、身体拘束についての勉強会を行っている。それにより、全職員がしっかりと理解、認識し、身体拘束を行わないケアを実践している。	年間研修計画に位置付け、高齢者虐待防止・身体拘束排除に関する勉強会を行っている。より良いケアの実践に向け、職員間での協議を重ね、姿勢の保持や環境整備についての工夫も確認できる。玄関の施錠は行われておらず、行動傾向の把握や個別の距離感を保った見守りを行い、抑圧感のないよう配慮している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職場内研修を実施し、虐待防止についての勉強会を行っている。 それにより、全職員が虐待防止の理解と徹底を継続し、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部より専門の講師を招き、全職員で受講している。 1名の利用者であるが、成年後見制度の利用を行っている。	現在、制度を活用している方もおり、年間研修計画の中に位置付け、社会保険労務士の方を講師として招き、成年後見制度について学んでいる。資料を整備し、必要時の情報提供が行なわれている。今後は、家族や地域に向けた情報提供の機会作りにも期待したい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等については、その都度十分な説明を行い、不安や疑問点には対応を行い、理解納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの不満や意見、苦情については、その都度傾聴し、相談等に応じている。意見箱を設置しているが、なかなか活用されていない状況である。	家族が意見を言い難いことを理解し、日常の来訪時や、年に1度、家族懇談会を実施し、コミュニケーションを深めながら、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議にて、意見交換や提案などを聞く機会を設けており、意見等を反映させている。	毎月の全体会議で意見交換をしたり、職員からの提案などを聴取している。年に1度、1年間の業務を振り返る意味も込めて、職員面接を行っている。目標設定や評価を行い、その際にも、職員からの意見や要望の収集に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回全職員に自己評価を行っており、目標や成果、意見要望等を記入してもらい職場環境の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢、経験等関係なくやる気を重視している。 又、事業所で働く職員についても、自由に自己実現が出来るよう配慮している。	採用にあたり、年齢や性別、資格、経験の有無は問わない。仕事に対するやる気を重視している。新人研修や内部研修の実施、外部研修参加を促し、職員個々のスキルアップを図っている。電気関係に詳しい職員等、これまでの経験を業務に生かしている職員もいて、個々の特性を発揮してもらっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動については、外部からの講師による研修を行い、各職員の意識を高め、日々のケアにも浸透していく様に取り組んでいる。	社会保険労務士を講師に招き、倫理、法令順守に関する研修を行っている。認知症に関する研修も繰り返し行い、職員の意識向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、積極的に参加するようにしており、全体会議にて研修参加者より発表してもらっている。 又、全体会議内にて毎月研修を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女地区グループホーム部会の研修には必ず参加し、交流の機会を増やし、情報交換等を行いサービスの質の向上が図れるように取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接を行い、本人の要望等の確認を行っている。 又、ホーム内を見学して頂き、納得された上で不安なく入所して頂けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の方達の話聞き、相談等には親身になって対応し、十分に説明を行いホーム内の見学も含め納得していただけるように努めた対応を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設で対応できないケースでも相談にのり、他サービス利用の紹介等を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は、お互いに協力しながら生活している。 利用者の出来る範囲で役割を持ってもらい、共に寄添い、支え合い助けあう関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を取り合い、話し合いや相談を行いながら、共に支えていく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時など、馴染みの人達との関係が途切れない様、場所や時間を有効に使っていただき、馴染みの関係が継続していけるように支援している。	家族の協力を得て、馴染みの美容室を利用したり、以前住んでいた地域の敬老会に参加している方もいる。また、法事への出席を支援し、週に1度の帰宅を継続している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人の精神面を把握した上で、他者との関わり合いがその利用者にとってより良い関係となる様に、気を配りながら常に支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、本人や家族からの相談や支援などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の要望、意向になるべく近い暮らしとなる様に、検討して話し合いを行っている。	センター方式を活用して情報の収集を行っている。「暮らしの様子」と題して、毎日の気付きを記録しており家族にも送付している。入居者の思いや、生活の様子的一端が垣間見え、思いの把握の資料にもなっている。個々に寄り添い思いの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は、家族等からの話を情報シートに記入し把握している。 新しい情報等も、職員同士で常に共有できる様に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行っている。 普段と少しでも心身に变化見られる場合は、観察に努め、看護師との連携も図りながら、些細な事にも気づけるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に話し合い、検討しながらより良い実践可能な介護計画を作成している。	担当制を取っており、事前に本人や家族の意向を把握し、介護支援専門員、介護職員、看護師が参加して、3か月ごとにカンファレンスを開き、現状に即した介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、身体面の変化、ケアの実践結果等を正しく記録するように努めている。 又、必ず申し送りを行い常に職員間で情報を共有している。記録に関する研修の参加も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の声を聴き、話し合いその時々に合わせて対応が出来るよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や地域からのボランティアの受け入れなど、地域との関わりを大切に楽しく暮らしていけるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、訪問診療医との連携をとり、常により良い医療支援に努めている。	入居の際に、希望するかかりつけ医について確認を行っている。基本的に、受診は家族による対応となるが、職員が同行することも多い。週2回、協力医療機関より、訪問診療が実施されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状態は職員同士、常に情報共有している。 看護師とも同じ様に情報共有しており、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは情報交換に努めている。 入院中の状態なども連絡を取り合い、状態を見に行くなどして、退院後の対応にも努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と看取りについて、説明と書類へのサインなど、終末期の生活について十分話し合いを行い、より良い支援が出来るよう努めている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明を行い、意向確認を行っている。状況の変化に伴い、その都度の意向確認や方針の共有を図っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年二回、防災訓練と救急講習を受けている。 全職員対応できる様に努めている。 又、マニュアルを準備し常時設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、夏と冬に日中、夜間帯の災害を想定し防災訓練を行っている。 又、運営推進会議の委員の方にも参加して頂いている。	昼夜を想定し、年2回の防災訓練を実施している。また、消防署の職員を講師に招き、AEDを用いた心肺蘇生の訓練も行っている。訓練時には運営推進会議の委員も見学を訪れている。ユニットごとに、飲料水、非常食の備蓄をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の誇りやプライバシーを大切にし、感謝の気持ちを忘れず一人ひとりに合わせた言葉かけ、対応を行っている。 又、記録、個人情報の管理は、保管場所を決め確保できている。	年間研修計画の中に位置付け、尊厳やプライバシーに関する勉強会を行っている。個人の時間の流れやペースを大切に捉えながら、その都度の意向確認に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望を表せるように働きかけ、各自の理解力に合わせて説明を行い、本人の意思を尊重し、自己決定が出来る様支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気持ち、ペースを大切にし、毎日安心して楽しく自由に過ごして頂ける様支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する服、季節に応じて似合った服を着ていただいたり、ご家族に協力をお願いし、おしゃれが出来る様支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日実行できていないが嚙下体操を行い、楽しく食事が出来る様に声掛け見守りを行っている。 又、自力接種できない方には、その方のペースに合わせた介助を行っている。	嗜好や生活習慣を踏まえ、主食の変更等にも柔軟に対応している。職員は交代で調理を担当し、個別の形態等に配慮しながら共に食卓を囲み、個別のペースの尊重に努めている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリーを計算された献立表をもとに食事を作り、利用者様に合わせた量、食事形態を工夫し、食事、水分摂取量を確保できるよう支援を行い、摂取量の記録を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声掛けしている。自力で出来ない方に対しては、声掛けをしながら介助し、清潔保持に努めている。 週に1回、歯ブラシとコップの消毒を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄のパターンに応じて、細めに声掛けを行っている。 又、オムツ使用者に対しても出来る限り日中はトイレで排泄して頂くように支援を行い、清潔を保つために清拭を行っている。	排泄状況を個別にチェックし、パターンやリズムの把握に努め、おむつを使用している方も、日中は出来る限りトイレでの排泄を支援している。夜間は個別の状況を検討し、支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックし、水分補給の声掛けを細めに行い、服薬や座薬等を調整しながら便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の入るタイミング、希望、体調に合わせてゆっくり入浴できる様に支援を行っている。 又、入浴の回数等も本人、家族の要望を取り入れている。	1日おきの基本的な入浴スケジュールは設定しているが、希望や体調、状況に応じて、シャワー浴や清拭も含め、柔軟な対応に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の居室が、その時々状況に応じて安心して休息したり、気持ちよく眠れる様に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に基づいて服薬支援を行い、服用時にスタッフは、日付、名前の二重、三重チェックを行っている。状態、症状の変化を看護師及び医師に報告し、支持を仰いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の行事や季節の行事を通して、利用者様の出来る範囲で役割を持って頂く。 又、天気に応じて散歩やドライブに出かけ気分転換をしていただく支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の利用者様の体調、意志を考慮し、天気気温を考えながら支援している。又、その月の行事に合わせてドライブ等も行って	日当たりの良いベランダやウッドデッキで、気軽に日光浴が行える環境である。外気に触れることを大切にとらえ、広い駐車場や周辺の散歩、少人数でのドライブ等を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は殆んど施設で行っているが、本人の希望で必要に応じて、買い物等出来るよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時は利用者自ら電話したり、家族に連絡を取るなどの支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に観葉植物を置き、リビングにはボードに季節感のあるレイアウトを施して花を飾るなどしている。又、季節によって室内の温度を調節している。リビングは動きやすいようにテーブルを配置している。	室内の所処に花や観葉植物が置かれ、壁には久留米絣の民芸品が飾られており、木造独特の温かみがある。リビングからウッドデッキやベランダにそのまま出られ、四季折々の風景を眺めながらの日光浴の場所となっている。テレビの前にはソファーや個人用の椅子が置かれ、くつろぎのコーナーになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、4人がけのテーブルを3か所に設置し気の合った利用者同士が席を共に出来る様にしている。ソファーも自由に使用され仲良くされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方をお願いして、家族の写真や馴染みの物を持って来て頂き飾ったり、施設より誕生日カードをプレゼントした物を飾っている。	各居室から、庭の木々や外の景色が見え、日当たりの良い明るい部屋となっている。箆笥等の家具が持ち込まれ、動線等にも配慮しながら、居心地の良さや安心できる環境作りに努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あらゆる場所に手すりを設置し、危険につながるものを置かず、安全に動ける様工夫している。居室の入り口に表札を付けて個人の部屋が分かるようにしている。		